

情報連絡員の報告からみた都内中小企業の景況

～ 景気回復の実感なく、今期後半の景況は不安定に～
(平成18年2月～7月期)

- 東京都中央会 -

東京都中小企業団体中央会は9月27日、東京都中小企業会館で平成18年度上半期の「中小企業団体情報連絡員報告会」を開催した。報告会の議題である「情報連絡票のまとめ」によると、この半年間の期間平均の数値(前年同期比)は、前期と比較して製造業では調査項目の9項目中、3項目で好転、6項目で悪化、非製造業では調査項目の8項目中、全ての項目が好転という結果になった。今期後半は、一時は好転していた製造業の業界の景況DIが大幅に悪化、その後に再度好転、一方、非製造業のDIは製造業とは対照的な動きを見せる等、不安定だった。また、原油高騰の影響は依然として大きく、価格転嫁は進捗せず、中小企業の経営を圧迫している。その他、特記事項からは多くの業種から「組合員間での格差拡大」、「高齢化を原因とした廃業による組合員の減少」、「報道とは異なり、景気回復の実感はない」等の報告がよせられた。また、6月からの駐車違反取締りの強化は中小企業の経営に大きな影響を与えており、猶予措置を検討してほしい等の要望があった。「情報連絡票のまとめ」の概要は次のとおり。

情報連絡票のまとめ

[平成18年2月～平成18年7月](製造業65名、非製造業85名、計150名)

特記事項及び要望事項

【主な特記事項】

(製造業)

受注減少・原材料価格が高騰しているにもかかわらず、価格転嫁できない企業は廃業に追い込まれている。

企業間格差が拡大している。

景気がよくなったという実感はない。

(非製造業)

天候不順、大雨の影響で野菜類全般に品不足で高値。

クールビズの影響は昨年より大きいと考えた方がよいか。

【主要要望事項】

(製造業)

ものづくり・ひとづくりに対する早期の対策を

クールビズ=ノーネクタイというイメージは払拭すべき。

(非製造業)

駐車違反の取締り強化に猶予措置を検討してほしい。

輸入野菜を増やして、国内の野菜の相場安定を。

今期の総合的な動き

	業界の景況DI		売上高DI		収益状況DI	
	前期	今期	前期	今期	前期	今期
製造	-9.1	↘ -11.3	3.1	↘ 2.8	-14.9	↘ -18.7
非製造	-22.8	↗ -21.6	-10.8	↗ -8.6	-31.2	↗ -23.1

(前年同月比のDI値を6ヵ月平均したもの。)

DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前期に比べ「増加」「上昇」「好転」したとする割合から「減少」「低下」「悪化」したとする割合を差し引いた値である。

業界の景況

製造業

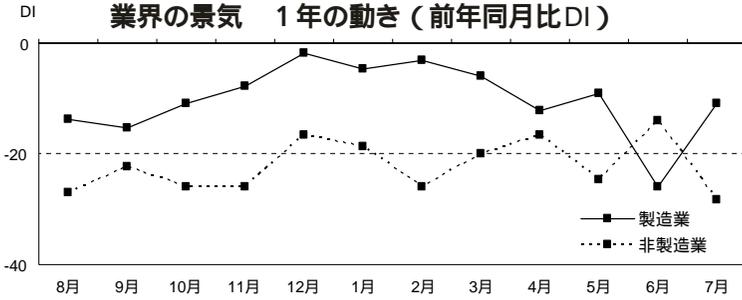
今期のDIの値は6月に大幅に悪化、7月は大幅に好転と後半に入って不安定な動きとなった。

今期平均では「好転」15.6%、「悪化」26.9%、DIは-11.3。

非製造業

今期のDIの値は製造業とは反対に6月に大幅に好転、7月には大幅に悪化するという不安定な動きとなった。

今期平均では「好転」8.3%、「悪化」29.8%、DIは-21.6。



売上高

製造業

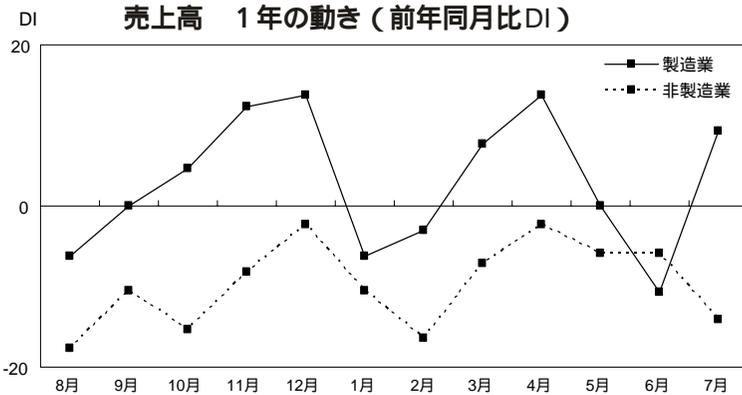
今期のDIの値は3月、4月と大幅に好転し、プラスに転じたが5月、6月と大幅に悪化、7月には再び大幅に好転するという不安定な動きとなった。

今期平均では「増加」30.0%、「減少」27.2%、DIは2.8。

非製造業

今期のDIの値は3月、4月と連続して好転したが、5月以降は悪化を続けた。

今期平均では「増加」20.6%、「減少」29.2%、DIは - 8.6。



収益状況

製造業

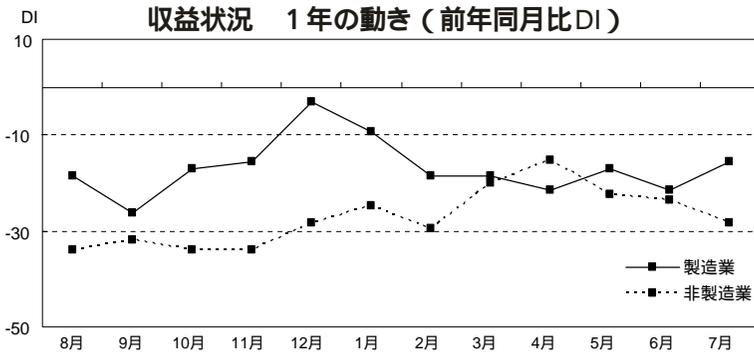
今期のDIの値は若干の好転と悪化を繰り返したが、大きな動きはなく推移した

今期平均では「好転」10.8%、「悪化」29.5%、DIは - 18.7。

非製造業

今期のDIの値は3月、4月と好転したが、5月以降は連続して悪化した

今期平均では「好転」9.2%、「悪化」32.3%、DIは-23.1。



各月の特記事項

- 2月 「受注減少、原材料価格が高騰しているにもかかわらず、価格転嫁できない企業は廃業に追い込まれている。また、企業間格差が拡大している。」(電気めっき業)
「組合員間では、仕事量の差異はあるものの、全体的には可も不可もない状況で推移している。組合員数の減少幅は小さいが、少子高齢化の影響で確実に減少している。」(建具製造業)
- 3月 「原油高の影響でプラグや刃が値上りし、販売価格を見直さなければならないようである。景気がよくなったという実感はない。」(硝子器具製造業)
- 4月 「組合員の店舗ではハローワークや就職情報誌で募集しても従業員が集まらず、深刻な問題となっている。」(二輪自動車小売業)
- 5月 「クールビズの影響は昨年よりも大きいと考えた方がよいか。中国での絹相場の高騰もマイナス要因になりうる。」(織物業)
「雨の影響で日照不足となり、キャベツ等が品不足で高値が続いた。また、野菜の作柄も悪かった。」(野菜・果実小売業)
- 6月 「駐車違反取締り強化により、業界の生命線ともいえるトラック等の配送に困難が生じている。5分で配送は不可。また、助手席に常時1名を置くのは中小企業には無理がある。」(包装材料小売業)
「6月からの駐車違反取締り強化により、商店街によっては数十回も監視員が見回りに来て、お客の減少傾向や業者と店側のトラブルなど、中小企業にとって深刻な問題となっている。」(商店街)
- 7月 「天候不順、大雨の影響で野菜類全般に高値で、特に葉物・ネギが品不足で異常高騰した。果実類も日照不足で甘みが薄く、売上が伸びなかった。」
(野菜・果実小売業)
「ビニールプール、浮き輪に代表される水物や花火の売上が天候不順により、前年度を大きく下回り、低迷する業界は追い打ちをかけられた状態となり、苦しい経営を強いられている。」(玩具卸売業)